

<イベントについて>
 *講堂で行うイベントは、基本的に定員200名(先着順)です。
 ***要申込**の表記がないイベントは申込不要です。
 ***有料**(材料費や保険料など)の表記がないイベントは無料です。
 *要申込のイベントは、原則として開催日一ヶ月前の開催日(休館の場合は翌開催日)9:30より電話もしくは受付カウンターで受け付けます。
 定員に達したら受付を終了します。イベントの日時や内容に変更が出た場合、その都度ホームページなどでお知らせします。
 *「みんな」は、博物館の活動を応援して下さる皆さんと一緒に、協力してつくりあげる「みんなでつくるイベント」を指します。

企画展「幕末明治の浮世絵百年一大江戸の賑わい」関連イベント

- 講演会「浮世絵の楽しみ方ー絵師や主題に注目して」**
 5/12(日)13:30~15:00 講堂
 藤澤 西氏(神奈川大学国際日本学部准教授・国際浮世絵学会常任理事)
 ※浮世絵を読み解く楽しさについてご講演いただきます
- ワークショップ「うきよえをぬめてみようinこどもミニミニはくぶつかん」**
 5/3(金・祝)10:30~15:30 なんだべや 当館学芸員
 ※無地の浮世絵に色をぬめて、あなただけの作品に仕上げよう。
- 歴史講座「浮世絵のくずし字を読んでみよう」**
 6/9(日)13:30~14:30 講堂 当館学芸員
 ※浮世絵に書かれた文字を読んでみましょう。
- 展示解説会 **有料** 企画展観覧料または年間パスポート**
 4/28(日)・5/26(日)13:30~14:00および6/9(日)14:45~15:15
 企画展示室 当館学芸員

キッズ・ファミリー向けイベント

- 博物館でもよみかぜ**
 4/13(土)・5/11(土)・6/8(土)10:30~11:30 なんだべや
 ※エプロンシアター、紙芝居、昔語り。いろいろな「おはなし」が博物館のモノや人と出会います!
 「わくわく」「どきどき」「ここにこ」「ほかほか」な時間をお楽しみください。
- こどもミニミニはくぶつかん**
 5/3(金・祝)~5/5(日・祝)10:30~15:30 なんだべや
 ※博物館もこどもの日。お子さんが楽しめる博物館ならではのワークショップなどをご用意してお待ちしています。
- 会津短大生とあそぼう**
 5/26(日)10:00~12:00 なんだべや
 会津大学短期大学部幼児教育・福祉学科 あそびサークルの皆さん
 ※お兄さんとお姉さんがおもちゃや絵本などの遊びを用意してみんなを待っている!
 博物館を学びのある子育ての場所として、使ってみませんか?
 (小学校低学年くらいまでが対象)

見たい!知りたい!楽しみたい! 多彩なイベント

- 美術講座 美術放談1「主のために」**
 4/13(土)13:30~15:00 講堂
 小林めぐみ、塚本麻衣子(当館学芸員)、川延安直(当館専門員)
 ※藩主の御用をつとめたお抱え絵師、お抱え刀工。仏に仕える心の表れとしての奉納品。主のために精魂込めて作られた美術品から、人々の思いを探ります。
- 博物館講座 三の丸から講座 「空から読む若松の歴史ー地形・戊辰戦争・三十三観音ー」**
 4/20(土)13:30~15:00 講堂 高橋満・栗原祐斗・大里正樹(当館学芸員)
 ※完成したばかりの鶴ヶ城の模型の見どころを、考古・歴史・民俗の学芸員が解説します。
- みんな 「民謡を知る 民謡を唄うー玄如節と各地の民謡ー」**
 6/8(土)13:30~15:30 エントランスホール 玄如節顕彰会のみなさん
 ※会津伝統の民謡・玄如節を含む各地の民謡の歌詞を見る!意味や云われを知る!聴く!唄う!時間をお楽しみください。
- 美術講座 美術放談2「私だっすごいんです」**
 6/15(土)13:30~15:00 講堂
 小林めぐみ、塚本麻衣子(当館学芸員)、川延安直(当館専門員)
 ※センターは取れないけどなぜか存在感がある。美術史の脳道にいるそんな魅力的な美術作品を取り上げます。

【三の丸からプロジェクト】

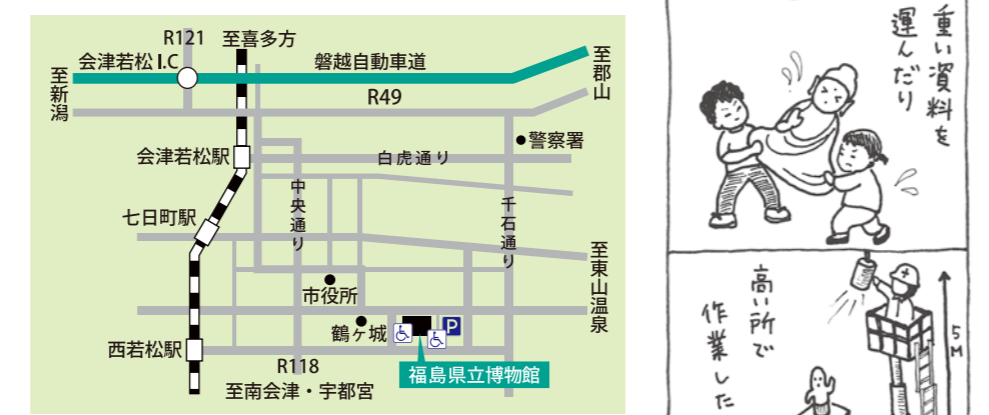
【三の丸からプロジェクト体験型プログラム提供事業】
 武家文化・ものづくり文化体験をさらに気軽に



お立ち寄りいただいたらいつでも会津の武家文化やものづくり文化に出会える…。そんな博物館を目指して、今年度は講師が「なんだべや」に滞在するプログラムも開催します。開催日時に越えしただければ申し込み無しで講師の演奏や作業の様子をご覧いただけます。初回の5月12日(日)は、七絃琴の琴士飛田立史さんが「なんだべや」に。江戸時代、会津藩士も弾いていた「七絃琴」がどんな音色だったのか、飛田さんの演奏に耳を傾けたり、弾琴にチャレンジしたり、飛田さんは7月、8月、9月にも滞在予定です。秋にはものづくりの作り手たちの滞在制作も予定しています。詳しくは当館HPでご紹介しますのでご覧ください。

- 体験型プログラム(武家文化)七絃琴**
 5/12(日)・6/9(日)2日間とも10:30~12:00・13:30~15:00 なんだべや 飛田立史さん(琴士)
 ※江戸時代、会津藩士も弾いていた「七絃琴」の音色を楽しみませんか? ご自由にお立ち寄りください。
- 雪国ものづくりマルシェ2024春**
 5/18(土)16:00~19:00、5/19(日)9:30~17:00 前庭ほか
 ※見て触れて、美味しいマルシェ。会津のものづくりと食が集まります。
- 体験型プログラム(武家文化)茶道 **要申込** 各回定員20名 **有料** 1,500円**
 6/16(日)①11:00~、②14:00~各回1時間程度 なんだべや
 宮崎宗伊(真千家 会津茶楽会・宮崎茶道教室代表)
 ※ちょっと一服していきませんか?初心者大歓迎です。

観覧料
 ■常設展観覧料 一般・大学生280円(20名以上の団体は220円)
 こどもの日5/5は、すべての方の常設展観覧料が無料です。
 ■企画展「幕末明治の浮世絵百年一大江戸の賑わい」
 一般・大学生1,000円(800円)、
 ()内は20名以上の団体料金。
 *高校生以下は常設展・企画展ともに無料です。
 ■年間パスポート 2,000円
 購入日から1年間、当館主催の企画展や常設展が何度でもご覧いただけます。
 ■三施設共通券(当館常設展・鶴ヶ城・茶室隣間)
 一般・大学生630円
 排煙設備の不具合により、常設展総合展示室は休室しております。再開日が決まりましたら、ホームページ等でお知らせします。



- JR会津若松駅から約3km
 ・タクシーで約10分
 ・まちなか周遊バス「ハイカラさん」で約20分(鶴ヶ城三の丸口下車すぐ)
 ・まちなか周遊バス「あかべえ」で約30分(鶴ヶ城三の丸口下車すぐ)
- 車椅子使用者用駐車場**
 ・博物館西側「鶴ヶ城三の丸口」バス停そば:2台
 ・一般駐車場内博物館入り口側:3台
 ※ご不明な点はお問い合わせください。

Curator diary
 がくげいん日記
 学芸員とどうして
 頭の派
 重い資料を
 運んだり
 高所で
 作業したり
 肉体派
 暑いと
 汗をかき
 変な声を出して
 移動したり

Vol. 19 2024 4月~6月



Vol. 19 2024 4月~6月

なじよな Vol. 19 2024 4月~6月

Vol. 19 2024 4月~6月

小原洋哉撮影できるおしののけと蘭新橋 撮影:小原洋哉

福島県立博物館

福島県立博物館

令和6年度春の企画展

会期:4月27日(土)~6月16日(日)

幕末明治の浮世絵百年

会場:福島県立博物館 企画展示室

観覧料:一般・大学生 1,000円(20名様以上の団体800円)、高校生以下無料

*企画展料金で常設展もご覧いただけます。

年間パスポート 2,000円(購入日より1年間、当館主催の企画展・常設展を何回でもご覧頂けます)

主催 福島県立博物館

監修 中右瑛(国際浮世絵学会常任理事)

企画協力 E.M.I.ネットワーク

※作品はすべて中右コレクション



歌川芳年「高橋鉄道之図」明治4年(1871)



歌川広重「東海道五拾三次之内 蒲原(保永堂版)」天保4年(1833)



葛飾北斎「諸国名橋奇覧 すほうの国きんたいはし」天保4-5年(1833-1834)



三代歌川豊国「石川五右衛門 中村芝翫」文久2年(1862)



歌川国芳「源頼光公館土蜘蛛妖怪図」天保14年(1843)

担当者
(栗原祐斗学芸員)に
聞きました!

浮世絵作家の揃い踏みですね。

北斎、広重、英泉、豊国、国貞、国芳、芳年といった江戸時代後期から明治にかけて活躍した浮世絵師の作品が勢ぞろいします。それぞれの作風、個性などを一堂に見比べていただけるのもこの展示の魅力です。展示の監修をされている中右瑛さんが、浮世絵研究者としての視点で収集したコレクションから、おススメばかりを選んで展示します。

作者が多彩だということは、描く対象も多様ですね。

役者絵、名所絵、風景、当時の風俗や流行を描いたものや物語を題材にしたものなど浮世絵を網羅的にご覧いただけます。同じ名所絵でも北斎と広重の描き方の違いを楽しんだりもできますね。幕末から明治の風俗を描いた浮世絵からは、江戸から明治に移り変わる時代感や当時の人々の暮らしも垣間見えます。

歴史が専門の栗原さんのおススメの見方は?

浮世絵の面白いところは関わる人の多さ、分業制にもあると思います。下絵を描く絵師、下絵を版木に彫る彫師、紙にする摺師、そして本として流通させる版元と、多くの人に関わることで成立していた一大業界でした。現在のプロマイドさながらに人気があった役者絵、大ブレイクした名所絵などが広く受け入れられ、売れていた背景も気になります。そんな視点でも展示をご覧いただけたらと思います。

*会期中、展示をさまざまな方向から理解し、楽しめるイベントを多数企画しています。詳しくは4面のイベント情報をご覧ください。

テーマ展 けんぱくの宝 会津の絵画

会期:4月6日(土)~6月2日(日)

展示場所:部門展示室 歴史・美術

*常設展料金(一般・大学生280円)でご覧いただけます。高校生以下無料。

担当者
(川延安直専門員)に
聞きました!

歴史的テーマ展として毎年恒例になっている「けんぱくの宝」展。今回は「会津のお抱え絵師」を扱うんですね。

会津藩のお抱え絵師といえば加藤遠澤の名前がまずあげられます。福島県博では平成9年(1997)度に企画展「遠澤と探幽」を開催し、その後もあらたに遠澤作品の調査や収蔵が進みました。

遠澤以外のお抱え絵師についても教えてください。

遠澤の弟子たち、遠澤につらなる絵師たちがいます。安藤遠雪、安藤遠佐、竹内澤與などです。狩野派の王道を継承した絵師たちの作品も少しずつ確認できるようになりました。会津藩のお抱え絵師のうち永峯家は、お抱え絵師の家として歴代活躍しました。会津藩主の肖像画の制作という最も公的な仕事に携わっています。江戸時代後期に活躍した遠藤香村も藩の仕事として樺太に随行し現地の様子を描いています。

これまでの調査の成果としてお抱え絵師の仕事がわかってきてるんですね。

作品が見つかるようになった背景には、会津の絵画を所蔵する方の代替わりがあると感じています。代替わりをきっかけに所蔵し続けるかどうかを悩まれ、相談をいただくことが増えました。そんなご相談からレスキューできて世に残った作品もあります。「どうしよう?」と思われたらぜひ県博にご連絡ください。

県博が作品を保管し活用するバトンを預かったわけですね。

レスキューはできても既に状態が良くないケースもあります。限られた予算の中で少しずつ修復し、100年、200年後の未来に残る宝となるように、そして皆様にご覧いただけるようにしていきます。修復の予算の確保は大きな課題ですね。



遠藤香村筆「波に千鳥図」(伊藤豊松コレクション・当館蔵)

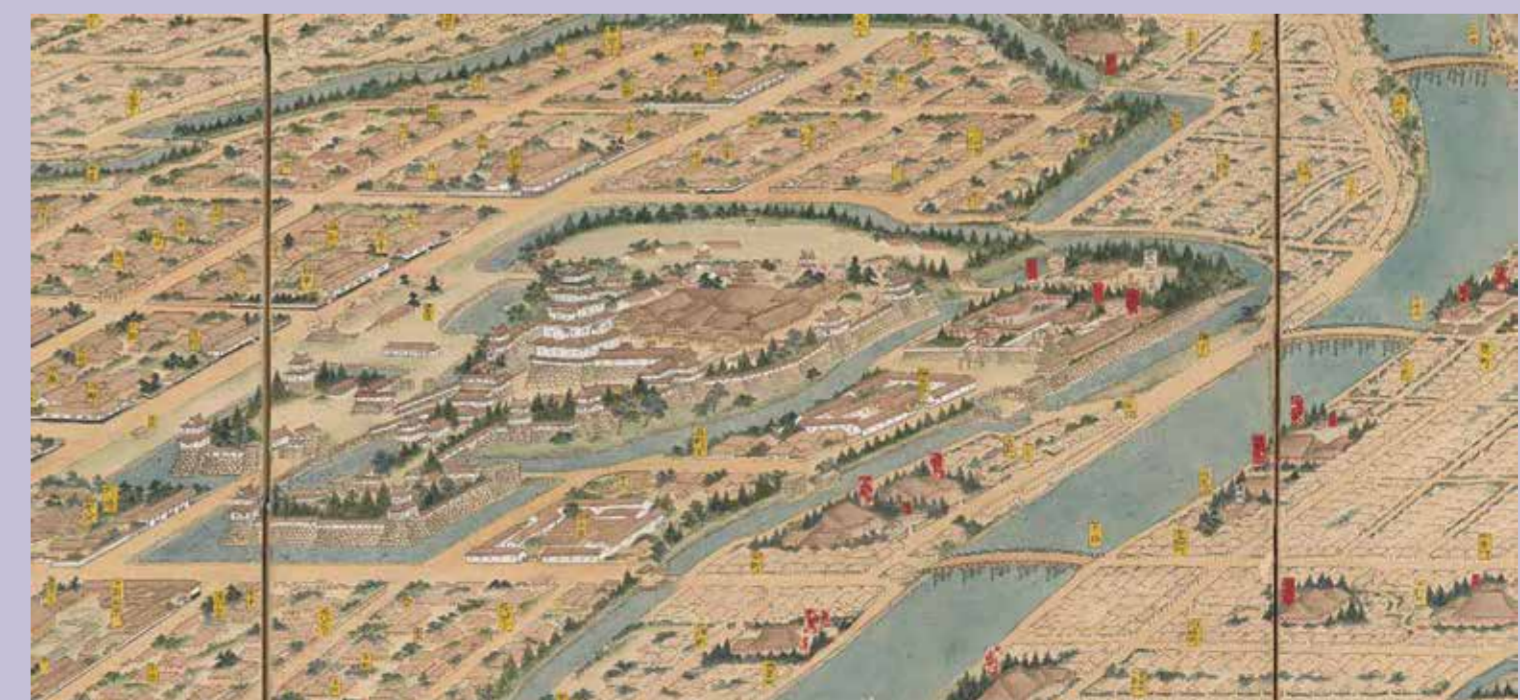


佐竹永海筆「鐘地図」(穴澤英雄氏寄贈・当館蔵)

収蔵庫なじよな 若松城下絵図屏風

幕末に会津で活躍した絵師、大須賀清光。俗名は喜知松と言ひ、「知ることを喜ぶ」と書きます。そんな彼は、徹底的に調査しなればできない作品をたくさん残しています。代表作の1つといえるのが、「若松城下絵図屏風」です。

「若松城下絵図屏風」は絵画作品としてはもちろん、幕末の城下町の様子がよくわかる歴史資料としても価値の高い資料です。南西方向から見下ろす構図で描かれており、扇状地に発達した若松の町の様子がよくわかります。また、藩の施設や武家屋敷、寺社などの建物がかなり詳細に描かれ、当時の町並みをよく捉えています。清光は似た作品を複数残していますが、比較すると描かれている建物に変化が見られます。町並みの変化を、清光はしっかりと調べて反映していました。



若松城下絵図屏風部分(当館蔵)

大江戸の賑わい